

議題 3

動物愛護管理推進計画の 進捗状況について

1 犬及び猫の引取り

(法第35条第1項、第3項による引取り)

【現状と課題】

- ・犬の引取り数は下げ止まり傾向。
- ・猫の引取り数は減少傾向。
- ・飼い主のいない子猫の引取りが依然として多い。
- ・多頭飼養崩壊が予想される飼養者へのより早いアプローチが必要



【必要な取組】

- ・不妊去勢手術の推進
- ・無責任な餌やりの制御
- ・地域猫活動の推進
- ・遺棄防止の啓発
- ・人の福祉部局との連携

2 野犬等の捕獲

3 所有明示措置

【現状と課題】

- ・捕獲数は減少の一途
- ・所有者明示されていない犬が多い。
- ・返還率(37%)は全国(29年度41.6%)と比較して低い。
- ・遺棄と推測される捕獲も多い。



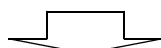
【必要な取組】

- ・適正飼養の普及啓発(逸走防止・終生飼養)
- ・登録(鑑札)、注射(注射済票)の装着の徹底
- ・マイクロチップ装着の普及啓発
- ・遺棄防止の啓発

4 殺処分数

【現状と課題】

- ・頻繁な哺乳を必要とする or 弱った状態で収容される子猫が多い。
- ・高齢や重度疾病、咬み癖が強い等により譲渡不適の個体が一定数いる。
- ・負傷猫として収容され、収容中に死亡する個体が多い。



【必要な取組】

- ・1の引取り数を減らすための取組
- ・収容動物の飼養環境の向上
- ・適正譲渡の推進

5 苦情及び指導助言数

【現状と課題】

- ・ 苦情の内容は、鳴き声や臭い、畑を荒らされる等、多岐にわたる。
- ・ 近年、SNS 等で発信された情報に対する第3者からの通報が増加。
- ・ 行政指導を継続するも、改善せず、苦情等が継続する事案が一定数ある。



【必要な取組】

- ・ 適正飼養指導の徹底
- ・ 市町村の動物部局の他、警察や人の福祉部局との協働対応の推進

6 猫に係る問題

【現状と課題】

- ・ 庭やゴミ荒らし、糞尿・鳴き声などが問題となることが多い。
- ・ 指導助言を一切受け入れない餌やりが一定数いる。
- ・ 地域猫活動について、猫を可愛がるための活動と誤認されやすい。
- ・ 屋外で飼養される猫と飼い主のいない猫との区別がつかない(つきにくい)。
- ・ 公園等で猫が増えて問題が長期化することがある。



【必要な取組】

- ・ 猫の屋内飼養や不妊去勢手術の推進
- ・ 地域猫活動の推進（考え方の正確な周知）
- ・ 公園等の猫の増頭等、よくある問題について考え方を整理して示していく。

7 動物愛護推進員と動物愛護管理推進協議会

【現状と課題】

- ・ 動物愛護推進員の在住地域に偏りがある。
- ・ 行政と動物愛護推進員との連携が希薄な地域がある。
- ・ 動物愛護推進員の認知度が低い。



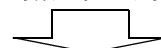
【必要な取組】

- ・ 動物愛護推進員等のボランティア同士の横の連携の構築
- ・ 動物愛護推進員が必要とする広報物等の配布

8 災害時における動物の救護

【現状と課題】

- ・ 行政間において協定先や協定内容に違いがある。



【必要な取組】

- ・ 行政間や、行政と外部団体との協定のあり方に係る検討
- ・ 災害時における動物愛護ボランティアの活用の検討
- ・ 災害を類型化した上での対応シュミレーションの実施。

9 狂犬病予防

【現状と課題】

- ・近年接種率は72～73%を推移



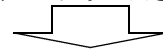
【必要な取組】

- ・マイクロチップ装着義務化と合わせた登録の徹底
- ・狂犬病発生時に備えたシュミレーション

10 特定動物の飼養

【現状と課題】

- ・愛玩目的で飼養する者も多い。
- ・全国的に咬傷等の事故や逸走報告が絶えない。



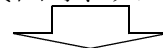
【必要な取組】

- ・事故防止に必要となる管理体制の検討

11 犬又は猫の多頭飼養

【現状と課題】

- ・多頭飼養の届出をしない者が多いことが推定。
- ・高齢、精神、貧困等、人の福祉面の問題と関連した崩壊事例への対応。



【必要な取組】

- ・多頭飼養届出制度の周知。
- ・人の福祉部局と連携した早期対応。